

動労千葉と共に歩もう!

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

動労「本部」は暴力集団だ

動労「本部」による動労千葉組織破壊攻撃は、四月一〇日を期して一段とエスカレートしてきました。それは「再建」・「交流オルグ」とは名ばかりの問答無用、暴力による組合事務所・庁舎への乱入、破壊、窃盗、組合役員の肉体を傷つけることのみを意図した、まさに筆舌につくしがたい乱暴、狼藉を働いているのです。竹竿、投石、バール、カッター、のこぎりを持ちこんだ、こうした手口が「オルグ」といえるでしょうか。もはやこれは、労働組合と無縁な右翼暴力集団そのものなのです。

かかる中であって、全ての支部の組合員は、真

なぜこの様な暴力オルグを連日行ってくるのか。

それは、山田支部長以下数名が「本部」と結託し銚子支部を「本部」派拠点にしようとしているからです。動労「本部」暴力団は、「銚子が脱落した。千葉は崩壊寸前だ」とデマを飛ばし、これを期に一気に千葉を解体せんとして、四月一〇日以降、連日各支部に、ファッショ的本性をムキ出しにして暴力団まがいの攻撃をしかけてきたのです。

もしも、山田支部長以下数名の裏切り行為が起らなかったならば、かかる蛮行ともいえる動労千葉破壊攻撃もその糸口をつかめなかったであろう。

その意味においては、われわれは、山田支部長以下数名の裏切り行為は到底容認できません。

動労「本部」へつくことは、いかになることを意味するか!

動労「本部」暴力団は、一方ではデマを流布しています。

いわく、「千葉は中野一派にひきまわされている」「中江副委員長を見殺しにした」「暴力集団だ」「動労千葉は共済も犠牲も払えない」等々、口汚なくののしっています。

われわれは、こうした下劣なデマに一言づつ答えるだけのヒマ人ではありません。事実をもって答えるだけです。今、われわれ動労千葉は、自信と確信、組合員・役員の相互信頼、団結をもって前進しています。共済・犠牲は確実に支払われて

の労働運動を守る為に連日、連夜、怒りをもって決起し奮闘しています。理不尽極まる、動労「本部」暴力集団の攻撃にひるむことなく闘う動労千葉は、本紙前号に紹介した通り増々団結を強固にして前進しています。

銚子支部組合員の皆さん。

私利私欲に目がくらみ、動労「本部」暴力集団と結託し、ウソとデマを流布してあらゆる方向へと皆さんをひきづりこもうとする山田支部長以下数名の人々に対し勇気をもって糾弾し、動労千葉の組合員として、仲間を信頼し共にスクラムを組んで闘うことを要望します。

います。動労「本部」暴力団こそ、革マル分子による暴力支配によって組合員をひきまわしているのです。最近では動労千葉本部に「東京地本組合員」を初め全国からひんぱんに激励の電話がきているのがなによりもの証左です。動労「本部」につくということは、反対同盟と一線を画し「水本謀略運動」「貨物安定宣言」「暴力支配」という誤まてる路線、労働組合とは無縁の暴力集団のものと屈服し、自らの労働者としての利益をも捨てることなのであります。

「運転事故」を喰いものにする松崎

四月九日、久住事故がその典型的な例です。

「乗務員が心配だ」と称して背広姿で事故現場に現われた松崎明(東京地本委員長)は、乗務員の心配など一かけらもしないで、復旧作業に協力する附近の民家にあがりこみ長時間にわたって山田支部長と何やら密談をかわし、あまつさえ、事故現場へかけつけた動労千葉の組合員に対し「駄馬の事故でも見て行くか」と銚子運転区乗務員を侮辱する言葉をはいて帰っていったのです。

こうした「運転事故」をも喰いものに、動労千葉を攪乱し破壊をせんとする輩が動労「本部」暴力集団の本性的なものです。

銚子支部組合員の皆さん。

今こそ、勇気をもって動労千葉の旗のもとに結集しましょう。暴力を許さず、山田支部長以下数名の私利私欲の為の裏切り行為にふりまわされることなく動労千葉一四〇〇組合員と共に前進しようではありませんか。